

2012(平成24)年9月実施

# 第41回 足立区政に関する世論調査

定住性 / 災害対策 / 環境・エネルギーに対する意識 /  
「あだち広報」、「わたしの便利帳」 / 保健・医療や福祉 /  
「ビューティフル・ウィンドウズ運動」 / 区政

2013(平成25)年3月  
 足立区

## はじめに

昨年9月、3千人の区民の皆様にご協力いただいた「第41回足立区政に関する世論調査」の結果がまとまりましたのでご報告申し上げます。

足立区では「協働で築く力強い足立の実現」を基本理念に掲げております。そのため、「協働」の前提となる、区民の皆様と行政との信頼関係を何よりも大切に考えています。信頼の源は「互いをいかに理解しあえるか」にありますから、区が常に活発に情報発信を行い、透明性を高める一方で、区民の皆様のご要望や、区政をどのように受け止めていただいているかを熟知することが大変重要です。その意味で年に一度の世論調査は大きな意味を持っています。

交通の利便性向上など、都市機能面での評価が内外に高まる一方で、当区でも急激に高齢化が進行中です。人口構造の逆ピラミッド化は、区政のいたるところに深刻な影響を及ぼしつつあり、特に「社会的孤立」を根本原因として、自殺・引きこもり・ゴミ屋敷問題などの諸課題が顕在化してきています。区では今年度より「孤立ゼロプロジェクト」を本格実施し、この問題に真正面から挑んでいきます。

たとえいくつになっても、安心して住み続けることのできるまちの実現に向けて、区民の皆様のご理解を深めつつ、今後とも着実に施策を進めてまいります。

平成25年3月

足立区長 近藤 やよい

## はじめに

## 調査の概要

1	調査の目的	3
2	調査の内容	3
3	調査の設計	3
4	調査ブロック	4
5	調査方法	5
6	回収結果	5
7	報告書の見方	7
8	標本構成	10

## 調査結果の要約

1	定住性	15
2	災害対策	16
3	環境・エネルギーに対する意識	17
4	「あだち広報」、「わたしの便利帳」	18
5	保健・医療や福祉	19
6	「ビューティフル・ウィンドウズ運動」	20
7	区政	21

## 調査結果の分析

1	定住性	
	(1) お住まいの地域についての感じ方	27
	(2) 総合的な暮らしやすさ	48
	(3) 定住・移転意向	53
2	災害対策	
	(1) 一時集合場所・広域避難場所・小中学校等の避難所の認知度	61
	(1-1) 避難場所等を確認する方法	69
	(2) 備蓄や防災用具などの用意	72
	(2-1) 備蓄や防災用具などの用意の開始時期	75
	(2-2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容	77
	(2-3) 家庭での備蓄の量	80
	(3) 町会や自治会の防災訓練への参加状況	86
	(3-1) 防災訓練へ参加しない理由	89
	(4) 災害弱者・災害時要援護者の有無	92
	(4-1) 災害弱者・災害時要援護者への声掛けの有無	95

## 目次

---

( 5 ) 大地震が起きたとき不安に思うこと	98
( 6 ) 大地震の際の防災対策として区に特に力を入れてほしいこと	101
3 環境・エネルギーに対する意識	
( 1 ) 環境のために心がけていること	107
( 2 ) 震災前のエネルギーに対する意識	109
( 3 ) 震災後のエネルギーに対する意識	112
( 4 ) エネルギーに対する考え	115
( 5 ) エネルギー使用についての現在の状況	128
4 「あだち広報」, 「わたしの便利帳」	
( 1 ) 足立区に関する情報入手の手段	149
( 2 ) 「あだち広報」を読む程度	152
( 2 - 1 ) 「あだち広報」で読む内容	155
( 2 - 2 ) 記事をよく読む理由	158
( 3 ) 「あだち広報」の読みやすさ	159
( 3 - 1 ) 「あだち広報」が読みやすい理由	162
( 3 - 2 ) 「あだち広報」が読みにくい理由	165
( 4 ) 「わたしの便利帳」の利用頻度	166
( 5 ) 「わたしの便利帳」の利用内容	169
( 6 ) 「あだちマップ」の利用頻度	172
( 7 ) 「あだちマップ」の利用内容	175
5 保健・医療や福祉	
( 1 ) 保健と医療について	181
( 2 ) 「成年後見制度」の認知度	184
( 2 - 1 ) 「成年後見制度」に関する取組みの認知度	186
6 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」	
( 1 ) イメージキャラクターの認知度	191
( 2 ) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知度	193
( 3 ) 刑法犯認知件数減少の認知度	196
( 4 ) 地域の治安	198
( 5 ) 自転車に鍵をかけているか	201
( 6 ) 地域の変化についての評価	204
( 7 ) この1年間に参加された活動	212
( 7 - 1 ) 引き続き、または今後参加したいと思う活動	215
( 7 - 2 ) 参加してみたい活動	218

7 区政	
(1) 以前と比べてよくなったと思う区の取り組み	221
(1-1) 今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組み	224
(2) 区の取り組みについての評価・印象	231
(3) 区政に対する満足度	245
(3-1) 不満だと思ふ理由	249
(4) 区に対する気持ち	250
(5) 区政についてのご意見、ご要望(自由回答)	257
(6) アンケートの有効性	261
使用した調査票	265

# 調査の概要



# 調査の概要

## 1 調査の目的

本調査は、区政の各分野について区民の生活実態、意識や意向、意見や要望などを把握し、これを今後の区政運営に反映させることを目的としたものである。

## 2 調査の内容

今回の調査では、次の7項目について調査した。

- (1) 定住性
- (2) 災害対策
- (3) 環境・エネルギーに対する意識
- (4) 「あだち広報」, 「わたしの便利帳」
- (5) 保健・医療や福祉
- (6) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」
- (7) 区政

## 3 調査の設計

- |              |                       |
|--------------|-----------------------|
| (1) 調査地域     | 足立区全域                 |
| (2) 調査対象     | 足立区在住の満20歳以上の男女個人     |
| (3) 標本数      | 3,000 サンプル            |
| (4) 調査対象者の抽出 |                       |
| 抽出台帳         | 足立区住民基本台帳             |
| 抽出方法         | 単純無作為抽出法              |
| (5) 調査期間     | 平成24年9月7日(金)～10月1日(月) |
| (6) 調査機関     | (株)エスピー研              |



## 4 調査ブロック

図1 ブロック区分図



表1 調査ブロック - 町丁目対応表

ブロック名	地 区 町 丁 目 名
第1ブロック	千住関屋町、千住曙町、千住東一丁目～二丁目、千住旭町、柳原一丁目～二丁目、日ノ出町、千住橋戸町、千住河原町、千住仲町、千住緑町一丁目～三丁目、千住宮元町、千住中居町、千住龍田町、千住桜木一丁目～二丁目、千住一丁目～五丁目、千住大川町、千住寿町、千住元町、千住柳町
第2ブロック	小台一丁目～二丁目、宮城一丁目～二丁目、新田一丁目～三丁目、鹿浜一丁目、堀之内一丁目～二丁目、椿一丁目、江北一丁目～五丁目、扇二丁目
第3ブロック	西新井本町一丁目～五丁目、扇一丁目、扇三丁目、興野一丁目～二丁目、本木一丁目～二丁目、本木東町、本木西町、本木南町、本木北町、西新井栄町三丁目
第4ブロック	西新井栄町一丁目～二丁目、関原一丁目～三丁目、梅田一丁目～八丁目、梅島一丁目～三丁目
第5ブロック	足立一丁目～四丁目、西綾瀬一丁目～四丁目、中央本町一丁目～五丁目、弘道一丁目～二丁目、青井一丁目～六丁目
第6ブロック	加平一丁目、綾瀬一丁目～七丁目、東綾瀬一丁目～三丁目、谷中一丁目～二丁目、東和一丁目～五丁目、中川一丁目～五丁目
第7ブロック	大谷田一丁目～五丁目、佐野一丁目～二丁目、辰沼一丁目～二丁目、六木一丁目～四丁目、神明一丁目～三丁目、神明南一丁目～二丁目、北加平町、加平二丁目～三丁目、谷中三丁目～五丁目
第8ブロック	西加平一丁目～二丁目、六町一丁目～四丁目、一ツ家一丁目～四丁目、保塚町、東六月町、平野一丁目～三丁目、保木間一丁目、保木間二丁目(12番を除く)、南花畑一丁目～三丁目、東保木間一丁目～二丁目
第9ブロック	花畑一丁目～八丁目、南花畑四丁目～五丁目、保木間二丁目(12番のみ)、保木間三丁目～五丁目
第10ブロック	西保木間一丁目～四丁目、竹の塚一丁目～七丁目、六月一丁目～三丁目、島根一丁目～四丁目、栗原一丁目～二丁目
第11ブロック	西新井一丁目～七丁目、谷在家一丁目、西伊興町、古千谷一丁目(7、12、13、18番地)、栗原三丁目～四丁目、西伊興一丁目～二丁目、伊興一丁目～三丁目、西竹の塚一丁目～二丁目(1～7番[4番21・23・24の一部・26、7番20の一部・21～22を除く])
第12ブロック	鹿浜二丁目～八丁目、椿二丁目、江北六丁目～七丁目、谷在家二丁目～三丁目、加賀一丁目～二丁目、皿沼一丁目～三丁目
第13ブロック	舎人一丁目～六丁目、入谷一丁目～九丁目、古千谷一丁目(4～5、8～11、14～17番地)、古千谷二丁目、古千谷本町一丁目～四丁目、西竹の塚二丁目(4番21・23・24の一部・26、7番20の一部・21～22、8～17番)、入谷町、伊興四丁目～五丁目、西伊興三丁目～四丁目、東伊興一丁目～四丁目、舎人町、舎人公園、伊興本町一丁目～二丁目

## 5 調査方法

- (1) 調査方法 郵送配布郵送回収法(依頼状1回、督促状1回)  
(2) 調査票 章の調査票を使用

## 6 回収結果

- (1) 標本数 3,000 票  
(2) 有効回答数 1,999 票 有効回収率 66.6 %  
(3) 回収不能数 1,001 票 回収不能率 33.4 %

### (4) 地区別回収結果

表2 調査ブロック - 地区別回収結果

ブロック名	20歳以上人口	構成比	標本数	有効回収数	有効回収率
区全体	556,678人	100.0%	3,000票	1,999票	66.6%
第1ブロック	62,388	11.2	333	245	73.6
第2ブロック	39,531	7.1	214	139	65.0
第3ブロック	35,642	6.4	193	113	58.5
第4ブロック	47,374	8.5	256	165	64.5
第5ブロック	51,692	9.3	279	185	66.3
第6ブロック	60,070	10.8	325	229	70.5
第7ブロック	44,959	8.1	243	163	67.1
第8ブロック	36,198	6.5	195	128	65.6
第9ブロック	27,145	4.9	147	87	59.2
第10ブロック	47,352	8.5	256	170	66.4
第11ブロック	35,355	6.4	191	122	63.9
第12ブロック	29,765	5.3	161	111	68.9
第13ブロック	39,207	7.0	207	142	68.6

(20歳以上人口は平成24年8月1日現在)

( 5 ) 性別・年代別回収結果

表3 性別・年代別回収結果

性・年代	標本数	有効回収数	有効回収率
全 体	3,000 票	1,999 票	66.6%
男性(計)	1,490	870	58.4
20 代	205	96	46.8
30 代	284	147	51.8
40 代	316	156	49.4
50 代	218	137	62.8
60 代	243	179	73.7
70 歳以上	224	154	68.8
女性(計)	1,510	1,040	68.9
20 代	196	98	50.0
30 代	276	177	64.1
40 代	238	153	64.3
50 代	192	152	79.2
60 代	264	217	82.2
70 歳以上	344	242	70.3
無 回 答		89	

(注) この表での無回答は「性」を回答していない数を掲載している。また、「年代」においては、「性」を回答していても「年代」を回答していない方、又はその逆に「年代」を回答していても「性」を回答していない方がいるため、各年代の数を足し上げても「性」(計)の数とは一致しない。

## 7 報告書の見方

- (1) 回答の比率(%)はすべて百分比で表し、小数点第2位を四捨五入した。そのため、百分比の合計が100%に満たない、または上回ることがある。
- (2) 基数となるべき実数は、nで表している。nは、回答者総数または該当設問の該当者数である。
- (3) 複数回答の設問は、各選択肢を1つだけでなく、2つ以上選択するため、各選択肢の合計数字が100%を超える場合がある。
- (4) グラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- (5) 性・年代などのクロス分析の場合、分析軸の「その他」、「無回答」を掲載していないため、調査回答者全員の人数より少なくなることがある。
- (6) 集計は、単純集計、フェイスシートとのクロス集計、設問間クロス集計の3種類を行った。
- (7) 問3の定住・移転意向における『定住意向(計)』のように、「ずっと住み続けたい」と「当分は住み続けたい」等の2つ以上の選択肢を合わせた項目の比率を表記する場合、その比率は、それぞれの選択肢の実数値を合計して、比率を再計算したものを使用している。
- (8) 標本誤差

標本誤差とは、今回のように全体(母集団)の中から一部を抽出して行う標本調査では、全体を対象に行った調査と比べ、調査結果に差が生じることがあるが、その誤差のことをいう。この誤差は、標本の抽出方法や標本数によって異なるが、誤差を数学的に計算することが可能である。

今回の調査の回答結果から、母集団(足立区在住の満20歳以上の男女)全体の比率を推定するため、無作為抽出法の場合の標本誤差の算出式と早見表を示した。

標本誤差および早見表は、以下のように使用する。

例えば、問3の「あなたは、足立区に今後も住み続けたいと思いますか。」という質問に対して、「ずっと住み続けたい」と答えた人は、1,999人のうち37.9%であった。回答者数が1,999人、回答率が40%前後のときの標本誤差は、早見表では±2.19%であるから、「ずっと住み続けたい」と考えている人は、足立区在住の満20歳以上の男女全体(母集団)の35.71%から40.09%であると推定できる。

### 標本誤差算出式

$$b = 2 \sqrt{\frac{N - n}{N - 1} \times \frac{P(1 - P)}{n}}$$

b = 標本誤差

N = 母集団数(足立区の20歳以上人口)

n = 比率算出の基数(回答者数)

P = 回答の比率(0 P 1)

## 早見表

回答の比率 (P) 基 数 (n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,999	± 1.34	± 1.79	± 2.05	± 2.19	± 2.24
1,000	± 1.90	± 2.53	± 2.90	± 3.10	± 3.16
800	± 2.12	± 2.83	± 3.24	± 3.46	± 3.54
600	± 2.45	± 3.27	± 3.74	± 4.00	± 4.08
400	± 3.00	± 4.00	± 4.58	± 4.90	± 5.00
200	± 4.24	± 5.66	± 6.48	± 6.93	± 7.07
100	± 6.00	± 8.00	± 9.17	± 9.80	± 10.00

## 早見表 - 性・年代別

回答の比率 (P) 基 数 (n)		10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
全 体	1,999	± 1.34	± 1.79	± 2.05	± 2.19	± 2.24
男性 (計)	870	± 2.03	± 2.71	± 3.11	± 3.32	± 3.39
20 代	96	± 6.12	± 8.16	± 9.35	± 10.00	± 10.21
30 代	147	± 4.95	± 6.60	± 7.56	± 8.08	± 8.25
40 代	156	± 4.80	± 6.41	± 7.34	± 7.84	± 8.01
50 代	137	± 5.13	± 6.83	± 7.83	± 8.37	± 8.54
60 代	179	± 4.48	± 5.98	± 6.85	± 7.32	± 7.47
70 歳以上	154	± 4.83	± 6.45	± 7.39	± 7.90	± 8.06
女性 (計)	1,040	± 1.86	± 2.48	± 2.84	± 3.04	± 3.10
20 代	98	± 6.06	± 8.08	± 9.26	± 9.90	± 10.10
30 代	177	± 4.51	± 6.01	± 6.89	± 7.36	± 7.52
40 代	153	± 4.85	± 6.47	± 7.41	± 7.92	± 8.08
50 代	152	± 4.87	± 6.49	± 7.43	± 7.95	± 8.11
60 代	217	± 4.07	± 5.43	± 6.22	± 6.65	± 6.79
70 歳以上	242	± 3.86	± 5.14	± 5.89	± 6.30	± 6.43

(注1) Nはnより非常に大きく、 $\frac{N-n}{N-1}$  1とみなせるので、 $\frac{N-n}{N-1} = 1$ として計算した。

(注2) 「年代」においては、「性」を回答していても「年代」を回答していない方、又はその逆に「年代」を回答していても「性」を回答していない方がいるため、各年代の数を足し上げて「性」(計)の数とは一致しない。

(9) 分類に使用した項目の定義

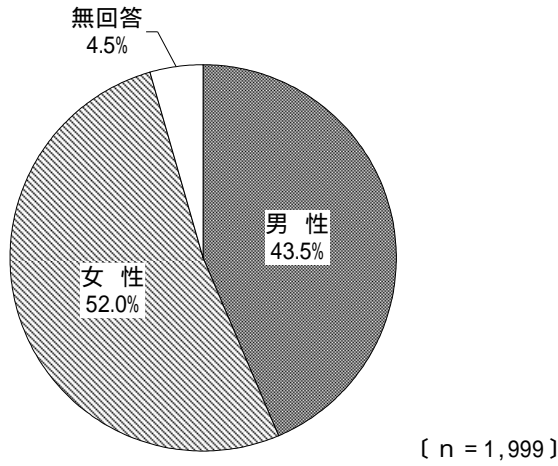
質問に対して、分類（表側）に使用した項目は以下のとおりである。

- 地域ブロック別 …… (13 カテゴリー)
- 性 別 …… (2 カテゴリー)
- 年 代 別 …… (6 カテゴリー)
- 性・年代別 …… (12 カテゴリー)
- ライフステージ別 …… (7 カテゴリー)
- ・ 独身期 40歳未満の独身者
  - ・ 家族形成期 40歳未満で子どものない夫婦、または本人が64歳以下で一番上の子どもが小学校入学前の人
  - ・ 家族成長前期 本人が64歳以下で一番上の子どもが小・中学生の人  
(家族成長小学校期) 本人が64歳以下で一番上の子どもが小学生の人  
(家族成長中学校期) 本人が64歳以下で一番上の子どもが中学生の人
  - ・ 家族成長後期 本人が64歳以下で一番上の子どもが高校生・大学生の人
  - ・ 家族成熟期 本人が64歳以下で一番上の子どもが学校を卒業している人
  - ・ 高齢期 本人が65歳以上の人  
(ひとり暮らし高齢者) 本人が65歳以上でひとり暮らしの人  
(夫婦二人暮らし高齢者) 本人が65歳以上で夫婦二人暮らしの人  
(その他の高齢者) 本人が65歳以上でひとり暮らし、夫婦二人暮らし以外の人
  - ・ その他壮年期 本人が40歳～64歳で独身、または本人が40歳～64歳で子どものない夫婦  
(壮年独身者) 本人が40歳～64歳で独身  
(壮年夫婦のみ者) 本人が40歳～64歳で子どものない夫婦
- 住居形態別 …… (9 カテゴリー)
- 職業 別 …… (11 カテゴリー)
- 就労(就学場所)別 …… (5 カテゴリー)
- 居住年数別 …… (5 カテゴリー)

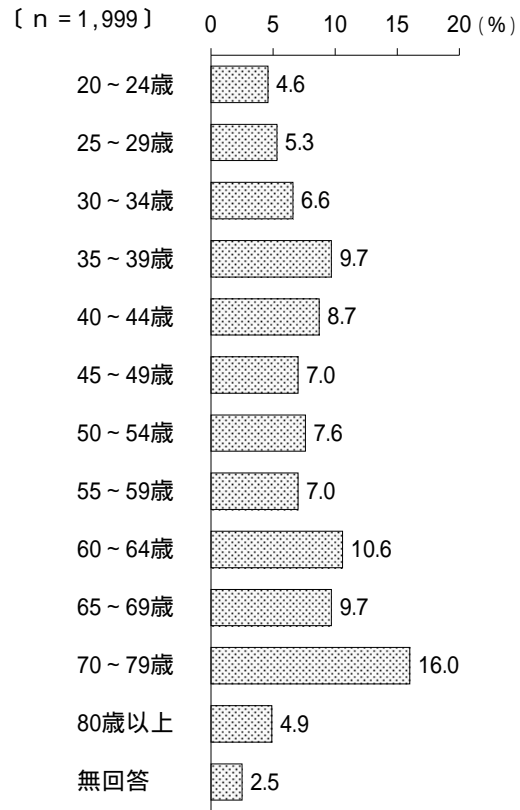
本文中、表側に使用した項目の回答者数が少ない選択肢は誤差が大きいため、分析の対象としていない場合がある。

## 8 標本構成

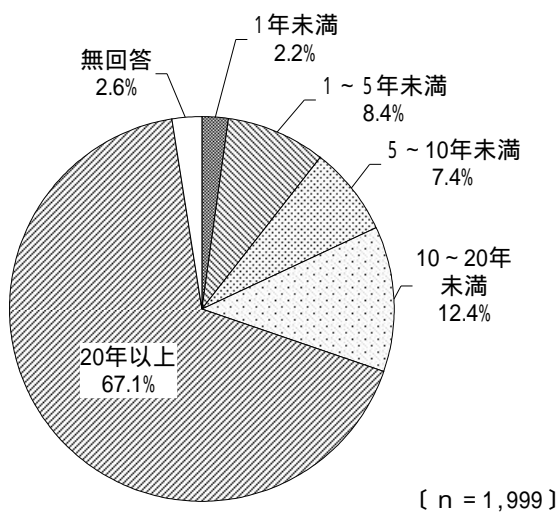
### F 1 性別



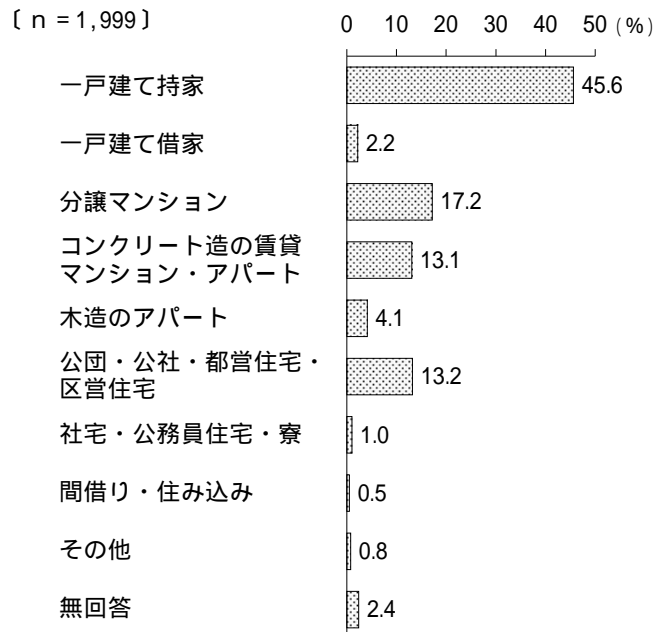
### F 2 年齢



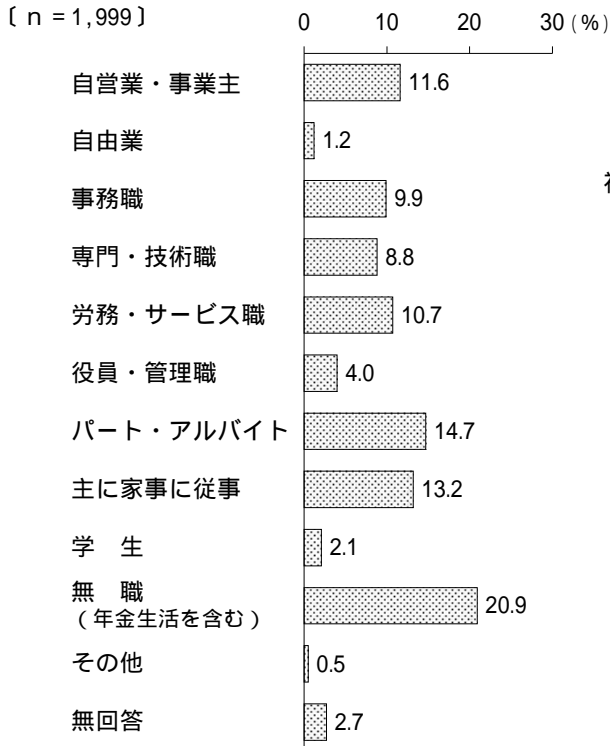
### F 3 居住年数



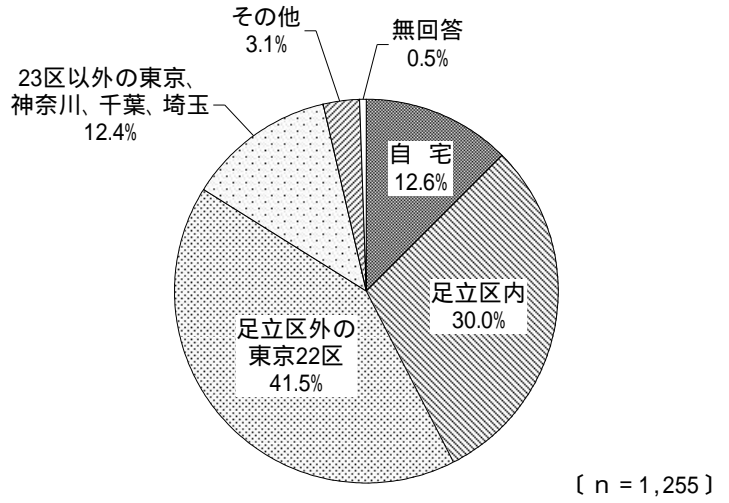
### F 4 住居形態



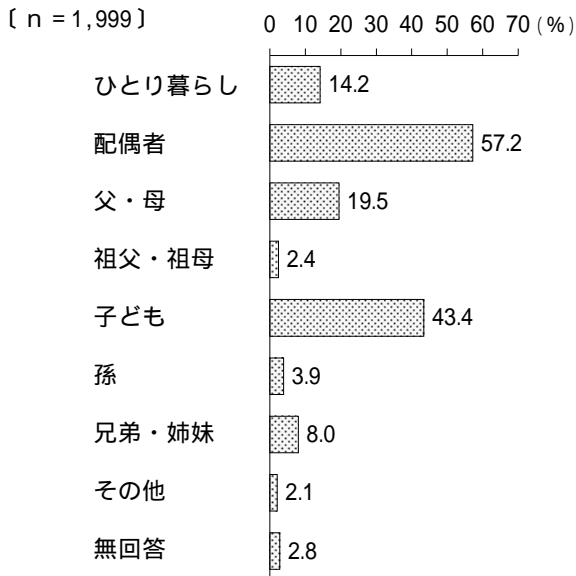
F 5 職 業



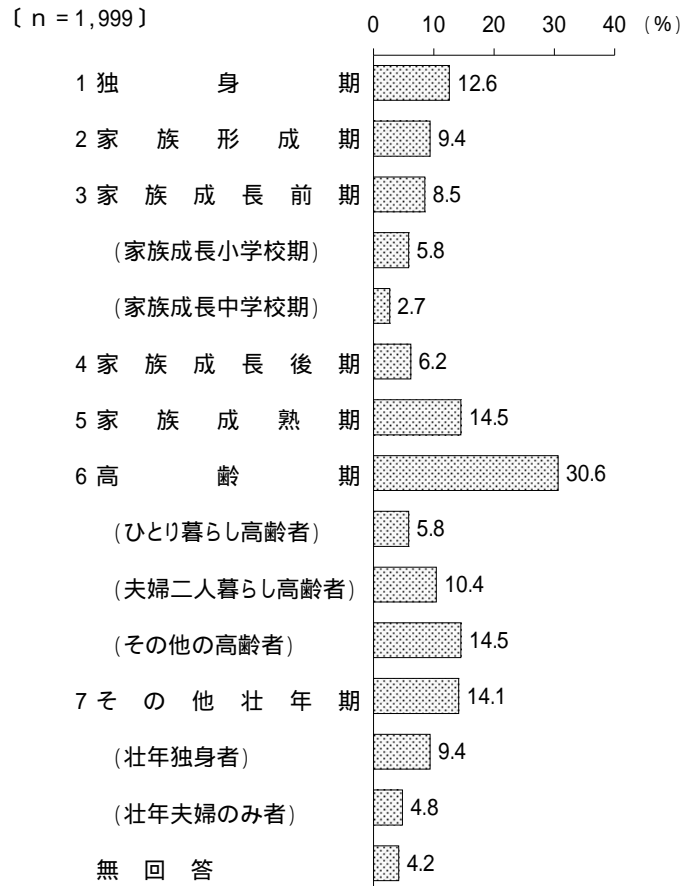
F 6 就労 ( 就学 ) 場所



F 7 同居家族 ( 複数回答 )



F 8 ライフステージ



( ) 内は内訳





# 調査結果の要約



## 調査結果の要約

### 1 定住性

「定住性」については、毎年設問を設け経年変化を捉えている。

主な設問内容としては、「暮らしやすいと感じるか」「今後も足立区に住み続けたいと思うか」であるが、それぞれ「暮らしやすい」が82.5%、「住み続けたい」が76.4%と高い割合である。

「暮らしやすい」と感じる人は、平成14年の78.9%が最低で、ここ数年は毎年8割を超える傾向が見られる。男女別、年齢別での感じ方に大差はないものの、ライフステージ別の高齢期層で「暮らしやすい」と感じる人がやや多い傾向にある。

「定住意向」についても、平成14年の72.3%が最低で、ここ数年は毎年75%を超え、高い定住意向で推移している。「住み続けたい」と思う人は、男女とも高い年代ほど割合が高く、特に60代以上では8割以上が「定住意向」をもっている。また、居住年数が長いほど「定住意向」は高く、逆に、若年層や居住期間が短い人ほど「移転意向」が強い傾向が見られる。

## 2 災害対策

平成23年3月の「東日本大震災」を経験し、区の災害対策強化のために、昨年度から新たに設けた調査項目である。今年度、「今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組み」で、「防災対策」が世論調査実施上、初めて第1位になった。

主な調査項目としては、「避難場所等の認知度」「備蓄などの用意」「防災訓練への参加状況」「区に期待する防災対策」などを尋ねた。

「避難所・避難場所」などの認知度は、各々昨年度に比較して「知っている」の割合が増加している。また、「家庭備蓄などの用意」については73.9%が何らかの用意をしており、昨年度とほぼ同様の割合となっており、災害に備えをする区民の姿勢が見受けられる。

一方で「防災訓練に参加していない」は77.6%と高く、理由としては「訓練を実施することを知らなかった」「参加したかったが、都合がつかなかった」などと答えている。

「身近に大地震が起きた場合、特に不安に思うこと」では、「家族の安否」が75.3%、「建物の倒壊」が65.4%、「火災の発生」が62.7%となっている。こうしたことを踏まえて、「区に特に力を入れてほしい防災対策」については、「非常用食糧・飲料水などの応急物資の確保」83.5%、「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」76.6%、「医療体制の確保」56.6%が上位3位となっている。

### 3 環境・エネルギーに対する意識

経年で確認している環境全般について心がけていることに加え、震災と原発事故後のエネルギーに対する意識の変化について新たな設問を設けた。

「環境のために心がけていること」では、「ごみと資源の分別を実行している」が 86.4%と最も高く、「ごみや吸いがらのポイ捨てはしていない」72.1%、「節電や節水など省エネルギーを心がけている」67.4%と続く。昨年度と比較すると、それぞれ2～6ポイント減少している。

東日本大震災発生前に、省エネや節電などエネルギーについて意識していたか聞いたところ、「意識していた」が 60.9%、「意識していなかった」が 35.9%と一定程度が意識していたことがわかった。しかし、東日本大震災発生後の意識の変化について尋ねたところ、「意識するようになった」が 85.6%に上り、意識の変化が結果として明確に表れている。

#### 4 「あだち広報」、「わたしの便利帳」

「あだち広報」、「わたしの便利帳」の見直しを視野に入れ、それぞれの利用状況について調査を実施した。

「足立区に関する情報入手の手段」について尋ねたところ、「あだち広報」が 82.5%と最も高く、今でも区の情報入手の主要な手段であることがわかる。その他の方法では、「ときめき」49.2%、「町会・自治会掲示板・回覧板」31.9%、「区のホームページ」15.7%と続いている。

「あだち広報をどの程度読むか」については、「ほとんどの記事を読んでいる」20.0%、「興味のある記事だけを読んでいる」45.5%、「見出しだけをながめる程度」15.6%の合計で 81.1%となる。2年前の同様の調査結果 88.7%と比較すると、若干数値が低下している一方で、「あだち広報は読みやすい」と答えている人は 86.6%に上っている。

また、「あだち広報でよく読む記事」は、「お知らせ記事（区の制度関係）」58.6%、「お知らせ記事（講座・イベント情報）」49.4%、「特集面（見開きカラー中面）」39.5%の順である。2年前の同様の調査では、「お知らせ記事（講座・イベント情報）」52.5%、「お知らせ記事（区の制度関係）」51.8%、「まちの見どころ（区の施設や史跡などの紹介）」37.2%であったが、やや順位が変化した。

「わたしの便利帳」の利用頻度は、「年数回」が 37.6%、「ほとんど使わない」35.7%と利用頻度が低いことがわかる。また、「便利帳の存在を知らない」が 17.6%であった。見る内容としては、「施設案内」46.5%、「急病・緊急のとき」36.3%、「医療機関ガイド」31.6%が上位となっている。

## 5 保健・医療や福祉

この分野の区民の意識変化については、経年調査しているものである。

「保健と医療などについて、あなた自身にあてはまるものをお答えください。」という問いに対して、一番多かった答えは「毎日朝ごはんを食べている」で68.3%である。次いで「毎年健康診断を受けている」58.5%、「食品などの保管方法や調理前の手洗い・きれいな調理器具を使うなど、食中毒予防のための注意をしている」57.8%となっている。

この設問に対する回答では、男女別、年代別の差が大きく、例えば「毎日朝ごはんを食べている」については、70歳以上で8割を超える反面、20代では5割台にとどまっている。また、「食品などの保管方法や調理前の手洗い・きれいな調理器具を使うなど、食中毒予防のための注意をしている」については、女性では7割に達するが、男性は4割台にとどまっている。

「成年後見制度の認知度」について、「内容を含め知っている」14.6%、「内容は分からないが、名前は知っている」26.2%を合わせて、40.8%であった。本年度は、障がい者虐待防止法が施行された年であったが、「知っている」は、3.2ポイント減少している。



## 6 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」

「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組みは、今年3年目の集大成の時期にあたるため、その成果について調査を実施した。

まず「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知度について尋ねたところ、「知っており、活動を実践している」2.8%、「知っているが、特に何も行っていない」13.5%、「名前は聞いたことはあるが、内容はわからない」17.3%と合わせた「知っている」が、33.6%となっている。運動を始めた2年前の26.8%から、徐々に認知度が上がってきている。また、地域の体感治安について「お住まいの地域の治安は、よいと感じますか」の質問には、「そう思う」11.8%、「ややそう思う」29.2%で、41.0%の人が「よい」と感じていることがわかった。

「地域の変化についての評価」では、「ゴミやタバコのポイ捨て」が減っていると感じる人が52.7%、「放置自転車」が減っていると感じる人が49.2%、「ペットの糞」が減っていると感じる人が40.0%となり、2年前より増加している。また、「登下校時のあいさつなどの声掛け運動」が増えていると感じる人が15.8%、「防犯パトロール」が増えていると感じる人が31.8%となるなど、目に見える形での運動の成果が徐々に浸透している。

## 7 区政

以前と比べてよくなったと思う区の取り組み、今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組みについて、経年調査を実施している。

「以前と比べてよくなったと思う区の取り組み」では、「都市開発」35.6%、「自然・緑化対策」30.0%、「交通対策」26.8%が上位3位である。昨年度の「都市開発」34.5%、「資源環境対策」30.3%、「自然・緑化対策」29.5%、一昨年度の「都市開発」35.3%、「自然・緑化対策」31.2%、「交通対策」28.0%とほぼ同様の傾向が伺える。

「今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組み」について尋ねたところ、今年度初めて「防災対策」45.6%が第1位になった。次いで「交通対策」45.4%、「高齢者支援」43.9%と続く。昨年度の上位3位は、「交通対策」33.6%、「高齢者支援」33.1%、「防災対策」28.8%、一昨年度は「高齢者支援」36.2%、「交通対策」27.8%、「子育て支援」20.3%となっており、「高齢者支援」「交通対策」が毎年、上位3位までに含まれている。

こうしたことを踏まえ、「区政に満足しているか」尋ねたところ、「満足」7.9%、「やや満足」43.1%を含めた「満足層」は51.0%に上った。これは、昨年度の「満足層」41.7%、一昨年度の「満足層」41.6%を大きく上回った。

また、「足立区に愛着をもっているか」「足立区に誇りをもっているか」尋ねたところ、「足立区に愛着をもっている」で「そう思う」は29.1%、「どちらかといえばそう思う」は42.0%で、合計71.1%の人が愛着をもっていると答えている。昨年度71.2%、一昨年度64.7%に比べ、増加傾向にある。また、「足立区に誇りをもっている」で「そう思う」は12.2%、「どちらかといえばそう思う」は27.8%と、合計40.0%の人が誇りをもっていると回答した。昨年度37.0%、一昨年度29.8%と比べて増加傾向が顕著になっている。

